

真鶴町立遠藤貝類博物館 地域の海の総合的管理に資する「海の学び」拠点の実現に向 けた取り組み

実施期間：2019年4月25日（木）～2020年3月31日（火）



【事業の内容・目的】

- 真鶴の海の魅力を町内外に発信する種々のイベントを実施し、町全体が地域の海を活かし、「海の学び」を継続的に発信することができる体制を作る。
- 「活動①海の情報の集約と発信」では、真鶴の海のニュースを刊行物やSNSで町内外に発信し、海洋リテラシーの向上を図る。
- 「活動②海の入り口の創出」では、体験イベントを通じ、参加者が海に触れる経験を提供する。
- 「活動③海とともに暮らすまちづくり」では、役場や町内事業者と共同でイベントを実施し、海を活かした地域振興を目指す。
- 継続的な「海の学び」の実現に向けて、町の自然を総合的に学ぶことができる体験施設の提案を行なう。

活動の様子

1. 海の情報の集約と発信

a. 「海の月報」の発信

【開催日時】2019年4月25日（木）～2020年3月25日（水）

【開催場所】遠藤貝類博物館、他町内12箇所

【活動内容・目的】

- 町民に海をより身近に感じてもらい、海は町の資源であるという共通認識を高めるため、また、町外者に真鶴＝海の町としての印象を強めることを目的に、町の海に関するさまざまな情報（海水温、漁獲、季節性の海洋現象など）を毎月とりまとめた月報を発信した。

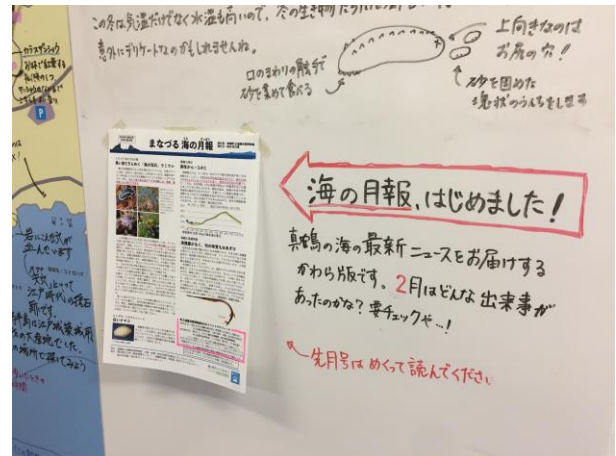
b. SNSの発信

【開催日時】2019年6月28日（日）～2020年3月20日（金）

【開催場所】町立遠藤貝類博物館 海のミュージアムFacebookページ

【活動内容・目的】

- 町の海と沿岸域で見られる生物や自然現象、海中の様子などを、真鶴の見どころとしてSNSで配信し、町の海へ継続的な関心を引き寄せるとともに、新たな訪問者の獲得を目指した。



a. 「海の月報」の発信

町の海に関するさまざまな情報をわかりやすく解説した「海の月報」を毎月発行した。印刷した月報は、博物館内の他、町内小中学校、役場、診療所、賛同いただいた飲食店など、町内12箇所に掲示し、また、博物館ホームページでpdfファイルを公開した。制作にあたって、町の漁協やダイビング事業者、町に研究施設をおく大学などに情報提供を依頼し、博物館との連携を強めた。海の月報の発行は昨年度から継続しているが、町内での認知度が上がり、掲示してくださる場所が増加した。2020年度4月からは町内の各地区全世帯での回覧が開始する。

b. SNSの発信

町内の海と沿岸域の自然に関する写真入りのショートコラムを「町立遠藤貝類博物館 海のミュージアム」Facebook ページ上で発信した。SNS では主にタイムリーなニュースを発信し、「海の月報」ではより詳しい解説と継続的なテーマを掲載することで、海の学びを深めることができるよう心がけた。同じページ上ではイベントに関する告知や報告なども行なっているが、今年度から、SDGs や箱根ジオパークに関係する情報も掲載し、広く情報発信に務めた。

2. 海の入りの創出

a. 真鶴の海の生物 展示観察会

【開催日時】 ①2019年11月9日(土) 10:00～17:00
②2019年12月22日(日) 10:00～13:00
③2020年2月8日(土) 10:00～15:30

【開催場所】 ①②真鶴港(豊漁豊作祭、真鶴なぶら市会場)
③遠藤貝類博物館エントランスホール

【参加者数】 合計1,299人: ①926人、②285人、③88人

【活動内容・目的】

- 町のお祭り会場や遠藤貝類博物館内で、磯の生物のタッチプールとプランクトン観察用の顕微鏡コーナーを設置した。普段海に接する機会がない方にも海に興味を持ってもらうことを目的とした。

b. 海に親しむイベント「海のミュージアム」

【開催日時】 ①ひもの作り体験&プランクトン観察
2019年10月19日(日) 10:40～14:30
②三ツ石海岸ビーチコーミング～漂着物を集めよう～
2020年1月26日(日) 10:00～12:30
(2020年3月1日実施予定だった「真鶴半島ジオストーリー体験ツアー」は新型コロナウイルス対策のため中止)

【開催場所】 ①真鶴港、真鶴町観光協会
②遠藤貝類博物館、三ツ石海岸

【参加者数】 合計32人: ①20人、②12人

【活動内容・目的】

- さまざまな体験プログラムを通じて、海の多角的な楽しみ方を周知するとともに、海への興味を能動的な学びへ繋げ、海の持続可能な利用や環境保全を考えるきっかけづくりを目的とした。また、気温が下がる秋～冬でも海に親しむことができる機会の創出と、海を活かした観光プログラムの実践として位置付けた。

c. 真鶴自然こどもクラブ

【開催日時】 ①海の研究をたいけんしよう!
2019年11月17日(日) 9:30～15:30
②海辺の町をたんけんしよう!
2020年1月19日(日) 9:40～11:50
(2019年10月12日の「まなづるミニ水族館をつくろう!」と2020年2月16日の「お林をたんけんしよう!」は雨天のため、3月14日の「春の磯であそぼう!」は新型コロナウイルス対策のため中止)

【開催場所】①横浜国立大学臨海環境センター、岩漁港

②真鶴港、真鶴地区の史跡

【参加者数】合計 40 人：①33 人、②7 人

【活動内容・目的】

- 真鶴町・湯河原町の児童を対象に、さまざまな視点から海に親しむプログラムを提供した。地域の海の文化を体験することで、地域を大切に思う心を育み、地域の“これから”を考える機会に繋げることを目的とした。



a. 真鶴の海の生物 展示観察会

海岸で採集した生物を入れたタッチプールを設置し、来場者に直接触れてもらった。プランクトンや標本を観察できる顕微鏡コーナーも併設し、スタッフによる専門的な解説を実施した。今年度は、町が主催するお祭りの会場（真鶴港）で2回、海の写真展の開催に合わせて遠藤貝類博物館エントランスホールで1回実施した。来場者の中には幼児や高齢者、身体障害者も含まれ、海へのアクセスが難しい方々にも海のおもしろさを伝えることができた。お祭りの会場で来場した方が、その後博物館に来館することもあった。



b. 海のミュージアム① ひもの作り体験&プランクトン観察

ひもの作りを通じて町の漁業に触れ、プランクトン観察により海洋生態系について知識を深めることを目的とした。参加者には、漁協の指導員のもと、定置網で獲れたムロアジやサバなどを包丁で捌き、乾燥させるまでを体験してもらった。乾燥させる間にプランクトンの採集と観察を行ない、海の世界連鎖や海洋プラスチックについて説明した。ひもの作りの過程で魚の口や胃袋を観察するため、プランクトン観察への興味が高まった。ひものという手土産ができるため、参加者に好評だった。



b. 海のミュージアム②三ツ石海岸ビーチコーミング～漂着物を集めよう～

寒い冬でも海を楽しむ方法の一つとしてビーチコーミングを紹介した。町の海の特徴をレクチャーで紹介した後、海岸に出て漂着物を集め、配布した木製ケースにそれを並べて、各々の海辺の標本箱を作成した。実際に集めてもらった漂着物と事前準備した標本を並べて、生物の分布と海流、海と陸のつながり、海洋プラスチック問題などについて解説した。雨天での開催となり、海岸での活動時間を短縮せざるをえなかったが、参加者数の意欲は高く、個人でビーチコーミングをやりたいという声も聞こえた。



c. 真鶴自然こどもクラブ① 海の研究を体験しよう！

横浜国立大学臨海環境センターに全面的に協力いただき実施した。参加者には、センターの実習船に乗って、沖合で層別採水と大型ネットを用いたプランクトンの鉛直採集を体験してもらった。その後、センターで水質の測定と顕微鏡を使ったプランクトンの観察を行ない、センター所属の下出准教授からご専門であるプランクトンについて講義いただいた。参加者数が多かったため、乗船班を2班に分け、待機中は海藻押し葉づくりを体験してもらった。大学施設の利用や実習船への乗船、海洋調査機器の使用という非日常的な経験が、子どもの海と研究への興味を深める機会になった。



c. 真鶴自然こどもクラブ② 海辺のまちをたんけんしよう！

真鶴地区の街並みを散策しながら、海とともに発展した町の文化を体験してもらった。真鶴港に集合後、港の水揚げ場と船着場、網干し場を歩き、瀬戸道を通って、しとどの窟や鯖大師といった史跡を散策した。途中、クイズを出して答えを探してもらったり、町の方からお話をいただいたり、さまざまな気づきを体験してもらった。振り返りの時間も設け、子どもが地域の自然と文化の繋がりを体験的に学ぶ機会を創出した。

【参加者の声】

- プランクトンのおかげで、たくさん魚のいる海になることがわかった。(真鶴の海の生き物展示観察会)
- 自分で採水した水の中に小さな生き物がいることを自分の目で見ること、「海食物連鎖」を実感できた。(ひもの作り&プランクトン観察)
- 毎日の暮らしの中にある物に対しても、どこから来てどうつながっているのかを考えるきっかけになった。(三ツ石海岸ビーチコーミング)
- 学校では学べない内容を体験できた。(海の研究をたいけんしよう！)
- レクチャーを受けながら、実際に生き物や石を手で触れることができたのが良かった。(港町をたんけんしよう！)

3. 海とともに暮らすまちづくり

a. 真鶴町役場職員研修 海の自然を活かしたまちづくり研修会

【開催日時】2020年2月17日（月）13:00～15:00

【開催場所】真鶴町民センター第3会議室

【参加者数】6人

【活動内容・目的】

- 役場職員が町の海の魅力を実感できる機会を作り、それを行政に活かしてもらうことを目指した。フリーダイビングの国内における第一人者で、真鶴の観光大使も務める岡本美鈴さんを招き、フリーダイバーから見た真鶴の魅力を講演いただき、後半は座談会形式の意見交換会とした。

b. 真鶴の海中の募集と展示

【開催日時】募集：2019年10月10日（木）～2020年1月31日（金）

展示：2020年2月7日（金）～3月13日（金）

（新型コロナウイルス対策のため31日までの開催期間を短縮）

【開催場所】遠藤貝類博物館、岩ダイビングセンター、他町内ダイビング事業者5店舗

【参加者数】写真提供者60人、写真展来場者845人

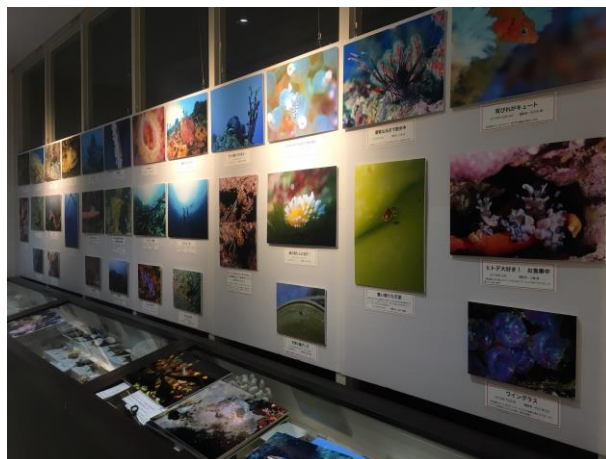
【活動内容・目的】

- 町の海の魅力、特に海中の魅力を発信するため、ダイビング事業者らと協力し、町に訪れるダイバーから、博物館の教育普及事業で用いる水中写真を提供いただいた。それらを印刷して博物館内で写真展を開催し、来館者に海の魅力を広めるとともに、ダイバーが町に再訪する機会を作った。



a. 役場職員研修 海の自然を活かしたまちづくり研修会

フリーダイビングの金メダリストで真鶴町観光大使も務める岡本美鈴さんを講師にお呼びして、フリーダイビングから見た真鶴町の魅力について講演いただいた。岡本さんは真鶴をホームとして活動されており、真鶴での練習から日本代表が12名も輩出されていることなどが紹介され、参加した役場職員からも驚きの声が上がった。講演後、座談会形式で質疑応答と町の海の魅力について意見交換を行ない、参加者には、それをどのように行政に活かすことができるか考えてもらった。普段とは異なる視点からの海の見方は、参加者にとって大いに刺激になったようで、活発な意見交換につながった。



b. 真鶴の海中写真の募集と展示

町内のダイビング事業者を通じて、町を訪れるダイバーから海中写真を募集した。それを印刷し、遠藤貝類博物館で写真展「知られざる真鶴の海 2020」を開催した。60名のダイバーから360枚の応募があった。この写真展は今年で3回目だが、毎年写真を提供して下さるダイバーもいて、その方々を中心に、ダイバーの間で応募の呼びかけが広まっている。町内外に町の海の魅力を発信するだけでなく、ダイバーと社会教育をつなぎ、写真展を通じてダイバーが町に再訪するきっかけを作ることができた。

【参加者の声】

- 自分の中の「真鶴の誇れること」がまた一つ増えた。(役場職員研修)
- 真鶴の海の魅力がすごく感じられた。(役場職員研修)
- 環境全体を守り継いでいくためには、行政サイドをはじめとして、町全体で意識する必要がある。(役場職員研修)

【事業全体のまとめ】

本事業では9件のイベントを展開し、計2,282人の参加があった。また、刊行物やSNSの発信により、海の学びを真鶴の町内外に発信した。今年度のイベントでは、真鶴でのローカルな体験をもとに、SDGsや海洋プラスチックなどのグローバルな海の問題に視点を広げることを意識ながらレクチャーを実施した。参加者からは、「海の生物多様性を身近に感じられた」「話題になっている海洋ゴミについて実感を持って理解できた」などの感想をいただいた。さらに、町民からは「真鶴で誇れることが増えた」という感想をいただき、地域の海の魅力を再発見するきっかけを提供できた。本事業では、町内外に「真鶴＝海を学べる場所」としての認知を広げるとともに、町民による地域の海の総合的管理につなげることができた。これらを背景に、今後の継続的な「海の学び」の発信にむけた拠点の設置を町に提言し、2019年度は、その実現に向けて、本事業で実施した教育普及活動の多くを町の予算で継続することになった。今後も地域の自然環境を活かし、「海の学び」のさらなる発展を実現させたい。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 真鶴町 教育委員会	真鶴自然こどもクラブの参加呼びかけ、役場職員研修の開催、広報
2. 真鶴町役場	町のお祭り会場での展示ブースの出店許可、広報
3. 湯河原町 教育委員会	真鶴自然こどもクラブの参加呼びかけ
4. 横浜国立大学臨海環境センター	海の月報への情報提供、真鶴自然こどもクラブへの施設提供と講師派遣
5. 箱根ジオパーク推進協議会	ジオパーク地域内の情報提供、イベントの後援、広報
6. 真鶴町漁業協同組合	海の月報への情報提供、海のミュージアムへの施設提供と講師派遣
7. 岩漁業協同組合	海の月報への情報提供
8. 真鶴町観光協会	海のミュージアムへの施設提供、広報
9. 真鶴町商工会	町のお祭り会場での展示ブースの出店許可
10. 岩ダイビングセンター	真鶴の海中写真の募集
11. 琴ヶ浜ダイビングセンター	真鶴の海中写真の募集
12. ダイビングショップ海家	真鶴の海中写真の募集
13. スキューバプロダイビングサービス真鶴	真鶴の海中写真の募集
14. 東京フリーダイビング倶楽部	真鶴の海中写真の募集
15. ブルーアース21 都立大	真鶴の海中写真の募集
16. 福浦ダイビングサービス	真鶴の海中写真の募集
17. 特定非営利活動法人ディスカバーブルー	イベントの立案、運営、業務委託

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 湯河原新聞	真鶴港、人波で大賑わい（2019年11月12日） 知られざる真鶴の海（2020年2月8日） 「白いナマコ」捕獲（2020年2月11日）
2. 広報真鶴	海の月報（2019年5月号） もうお馴染み？写真展（2020年3月号）
3. 海のミュージアムFaceBook	夏夜の海のヤコウチュウ（2019年6月28日） 真鶴町の花、海を旅するハマユウ（2019年8月9日） アカテガニの産卵（2019年8月22日） 忘れ草、ハマカンゾウ（2019年9月20日） 南の海からやってきた！季節来遊魚（2019年10月7日） 蝶々のようなプランクトン（2019年10月29日） ヒヨドリの旅立ちの場所（2019年11月11日） 秋の海辺を彩るイソギク（2019年11月25日） お林の紅葉（2019年12月18日） 真鶴ブルー（2019年12月26日） 2020（海）鼠年（2020年1月10日） 日和山からの眺め（2020年1月23日） 三ツ石海岸に漂着したウミガメ（2020年1月31日） 青い海の底まで見えます（2020年2月13日） 海中天然記念物！（2020年2月20日） 海岸の花、春一番！ハマダイコン（2020年2月27日） 謎の石段（2020年3月2日） 海中のジオパーク（2020年3月9日） 冬の海の天使、ダンゴウオの赤ちゃん（2020年3月13日） 磯遊びが楽しい季節がやってきました！（2020年3月20日）

以上